

# 福島県 中学校長会 広報

・会長挨拶「会長職の継続にあたり」.....	1
・第64回福島県中学校長会総会 .....	2
・平成26年度 組織及び役員一覧 .....	2
・学校教育の今日的課題「今、求められるもの」...	3
・平成26年度県中学校長会の活動と運営 ...	4~5
・第65回全日本中学校長会総会 .....	6
・支会情報と特色ある経営(福島・石川・南会津)...	7~9
・第64回東北地区中学校長会研究協議会御礼 ...	10
・平成26年度東北地区中学校長会福島大会概要 ...	10
・新会員紹介 .....	11
・随想「『体育人』この三文字の重み」.....	12



## 会長職の継続にあたり

福島県中学校長会長 君島 勇吉  
(福島市立福島第四中学校)

本年3月末をもちましてご勇退されました校長先生方のご功績に対しまして、心より感謝申し上げます。

また、福島からの報告書第2集「凜と生きる」が平成26年3月31日に発刊ができました。執筆・編集に当たってくださいました多くの校長先生方に御礼を申し上げます。福島県の中学校教育の復興に向けた示唆に富む報告を沢山いただきましたので、文科省、県教委、全日中、各都道府県中学校長会等々へ送付したところであります。

震災から3年が経過した今年度にあっても、休校が2校、避難先での仮設校舎等で開校している学校が11校と、震災・原発事故からの復興は大変厳しいものがありますが、本年4月より県内59市町村全てにおいて中学校教育が推進できることは、復興に向けた大きな一歩であると受け止めています。

さて、私こと、第64回総会におきまして、昨年度に引き続き福島県中学校長会の会長職を拝命いたしました。今年度は東北地区中研究協議会福島大会が飯坂温泉で開催されますので、県北域内の校長先生方で組織されます実行委員の皆様方や事務局員の皆さんのお力をお借りすることになります。記憶に残る大会となりますよう県内会員の皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

現在、内閣官房内の「教育再生実行会議」が様々な改革を提案しております。今後、中央教育審議会等の協議を通して、法制化・制度化されるものと思われまふ。特に、新教育長制度は27年4月からの導入、人事評価と給与との連動は28年度より実施予定であることなど、学校現場に次々と荒波が寄せてきます。

課題は山積するばかりであります。今年度の県中学校長会の運営に当たりまして「ふくしまの復興は教育から」を原点に据え、次の4つの観点を重視した取り組みを考えております。

1 校長会は校長の研修の場として、見識・資質等を高めることを目的としながら、研修の結果等を行政に具体的に働きかける有言実行を目指します。

- ・各専門部会、各支会の定例会等を通して、具体的な調査結果や行政資料等に基づき研修の充実を図り、学校経営の責任者としての見識・資質等を高めます。

- ・震災前からの教育課題と、震災・原発事故後に発生した課題について、分析的に捉え、その解決に向けて、県教委、地教委等と連携しながら、会員の英知と創意を結集して、「福島ならではの教育」の実践・展開に努めます。

2 改訂版「全日中教育ビジョン」の理念と10の提言を踏まえて、学校からの教育改革に努めます。

- ・「確かな学力」の定着のために、生徒が主体的に学ぶ授業の創造に学校全体での組織的な取り組みを推進します。

- ・道徳教育の充実、キャリア教育の推進等により、豊かな人間性と社会性の育成に、校長会あげて取り組みます。

3 教職員としての誇りと使命感を持ち不祥事絶無に努めます。

- ・教職に対する使命感や専門性を持ち、熱心に教育活動に当たる魅力ある教職員の育成に努め、県民の信託に応えます。

- ・校長会として不祥事に対する危機管理意識を醸成するとともに、ストレスを抱え込まない職場環境づくりを組織的、計画的に推進します。

4 東北地区中の事務局県として、全日中と東北5県中学校長会との連携に努めます。

- ・第64回東北地区中学校長会研究協議会福島大会の準備と大会運営に万全を期します。

以上の4点を柱に、県小学校長会、高等学校長協会、特別支援学校長会等との連携を密に図りながら、本会各専門部会の積極的な取組を通して諸課題の解決に向け邁進する覚悟ですので、会員皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

# 平成26年度 第64回福島県中学校長会総会

平成26年度第64回福島県中学校長会総会は、4月23日(水)福島県教育会館にて開催されました。



総会では、君島勇吉会長のあいさつの後、議事に入り、平成25年度会務・事業の承認及び決算報告が上程どおり承認され、続く平成26年度の役員選出では、満場一致で君島勇吉氏（福島市立福島第四中学校）が会長に再選されました。会長からは、「土曜授業についての今後の動き」「全国学力・学習状況調査の学校ごとの結果公表について」「県教委が推進する『福島ならではの教育』のパートナーとしての本会の在り方」「震災から4年目の、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの活用の在り方」等についての、また「東北地区中学校長会研究協議会福島大会を記憶に残る大会に」と、あいさつがありました。

その後平成26年度事業計画及び予算案が今年度の重点事項を中心に審議され、原案どおり承認されました。また本会活動の推進にあたっては、大震災及び原発事故発生の事実とそこから得た教訓は決して風化させてはならず、「学校は復興のシンボルであり、復興の活力源」であることを肝に銘じる必要があることを踏まえての活動方針が示されました。

総会の後に行われた、小・中合同開会式では、小・中校長会を代表して、小学校長会会長会田智康氏があいさつし、続いて、来賓を代表して、県教育委員会教育長杉昭重氏、市町村教育委員会連絡協議会会長芳賀裕氏、元県小学校長会会長鈴木信光氏より祝辞をいただきました。最後に、前県小学校長会会長福井一明氏が退会役員を代表してあいさつをされ、式を閉じました。

## 平成26年度 組織及び役員一覧

※ 理事が2名いる支会（福島・郡山・いわき）の支会長；◎印  
※ 常任理事；○印

役職名	氏名	勤務校	
会長	君島 勇吉	福島 四	
副会長	行財政	清野 茂徳	桃 陵
	研究	川島 宏	若松 四
	進路指導	小澤 章雄	平 一
	生徒指導	滝田 文夫	郡山 一
監事		佐藤 秀治	郡山 三
		白井 善雄	若松 五
		松本 伸一	平 二
理事	福島	◎○雉子波 敏司	清 水
	福島	君島 勇吉	福島 四
	伊達	清野 茂徳	桃 陵
	安達	住吉 哲也	二本松 三
	郡山	◎滝田 文夫	郡山 一
	郡山	岡崎 強	郡山 五
	岩瀬	渡部 修一	須賀川 一
	石川	吉田 忠夫	石 川
	田村	管野 正秀	常 葉
	東西しらかわ	○箭内 清和	白河中央
	北会津	川島 宏	若松 四
	耶麻	長谷川 良三	喜多方 一
	両沼	○齋藤 聖	新 鶴
	南会津	渡部 正弘	南会津
	相馬	○井上 恭一	原町 第一
	双葉	吉田 隆見	富岡 一
いわき	◎小澤 章雄	平 一	
いわき	石井 潤	中央台北	

### 【事務局】

事務局	事務局 長	菅野 善昌	福島 一
	行財政部 会長	小山 金也	福島 三
	研究部 会長	佐藤 和彦	福島 二
	進路指導部 会長	大橋 誠寿	蓬 萊
	生徒指導部 会長	齋藤 良一	西 根
	広報部 会長	林 尚	西 信
	庶務	茅原 秀雄	北 信
	会計	西牧 伸弘	渡 利

## 学校教育の今日的課題



## 今、求められるもの

福島県中学校長会副会長 小澤 章雄  
(いわき市立平第一中学校)

本年5月21日・22日の両日にわたって、国立オリンピック記念青少年センターで開催された、第65回全日本中学校長会総会に参加させていただきました。その折に文部科学省初等中等教育局長をはじめ、スポーツ・青少年局を含めた各課長など、各担当からの行政説明を聴く機会に恵まれました。その時に感じたことを含めて概要を述べたいと思います。

文部科学省の説明は、まず初日の総会終了後に、前川喜平初等中等教育局長から「当面する初等中等教育上の諸問題」と題する講演があり、教職員の定数改善を主とした話を聞くことができました。そして、翌日には担当者6名から次の内容を中心とした説明がありました。

少子化時代に対応する教職員配置改善等の推進や道徳教育の改善、英語教育の改革、全国学力・学習状況調査の結果公表、土曜日の教育活動推進、いじめ問題への対応、特別支援教育の在り方、学制改革など、これまで報道等で耳にしてきたこともありましたが、地方交付税による予算措置や法改正を含めて今後の日本の教育の在り方についての説明でした。背景には、少子高齢化や急激な科学技術の進展やグローバル化への対応があります。

その中で印象に残ったことは、有識者会議の設置や答申、教育再生実行会議・中央教育審議会の答申等を踏まえて具体化されていきますが、そのスピード感や学校の設置者である自治体の判断によるが多くなっているということでした。

今後の日本の教育を見通した改正・改革ということになれば、経済を含めた社会全体の動きや多様な意見や考えを取り入れることは当然ですが、いじめ対策や土曜日の教育活動など、すでに実施されたものもあれば、すぐにでも現実のものとなる内容が少なからずあるということです。そして、全国一律ではなくその地域の子供たちの実態に即

した取り組みを促す方向性が多いということでした。

こうしたことを受け、学校に勤務し、毎日子供たちと接している者にとって、何をどうすることが必要で大切なのだろうかということを思わざるを得ませんでした。

これからの子供たちに必要な力を身につけさせ、個性を伸張させるために、とりわけ校長に課せられることは、という視点で考えてみると、目の前の子供たちの実態把握が前提となりますし、教職員の資質向上や指導力の向上が不可欠です。そして、単に教育界だけではなく、社会全体の動向に敏感になることが大切なのではないかということが挙げられます。それらを踏まえつつ情報の的確な把握と適切な情報分析を通して学校全体で取り組むべき方向性と具体策を構築していかねばならないことが求められるように思います。

そのためには、校長としての指導力・リーダーシップはもちろんですが、先見性や企画力などに加え、変化を受け入れるだけでなく主体的に取り組む能動的な姿勢も大切な要素として浮かび上がるように思います。

現在の子供たちをどう指導し、今後の社会を生き抜くためにどんな資質・学力を付けていかねばならないのかをしっかりと見極めるとともに、もう一度校長としてどうあるべきかを見直すことで、より良い方向性や具体策を講じていきたいと考えています。

なお、県小中学校長会合同理事会においては、飯村新市義務教育課長の講話があり、教育改革の動きと併せて福島県の現状についてのお話がありました。その中でも、今後を迎えるであろう教職員の大量退職、大量採用ということを喫緊の課題として挙げられましたことを付け加えておきたいと思います。

## 平成26年度 「県中学校長会の活動と運営」

事務局長 菅野 善昌

東日本大震災及び原発事故から3年が経過し、県内・県外へ避難している子ども(18歳未満)は、平成26年4月1日現在約26,000人(平成25年10月1日現在比:約1,550人減)であり、避難先から徐々に子どもたちが戻りつつあることは、復興に向けた明るい兆しであると言えます。

中学校については、平成26年4月現在で臨時休業中の学校が2校、仮設校舎等で授業を再開している学校が11校です。しかし、この4月に学校再開が実現した双葉中学校に戻ってきた生徒は全員で6名という状況であり、教育の復興に向けた道のりはまだまだ遠いと言わざるを得ません。

また、県内の放射線の状況は、各地域によって異なるものの、通学路等の除染やホットスポットの問題など、今後も長く放射線の問題と向き合っていかなければならず、特に「安全・安心」を最優先にした関係各機関との密接な連携による教育活動の展開とともに、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の適正な実施に努めていかなければなりません。

学校が元気であること、生徒達の明るい笑顔が溢れていることは、地域の人達や保護者を勇気づけることとなります。復興のたくましい担い手を育てるのが学校教育であることから、「学校は復興のシンボルであり、復興の活力源である」ことを肝に銘じ、私たち校長は学校経営の最高責任者としての使命感や確固たる教育理念とビジョンをもち、課題解決に向けたリーダーシップを強く発揮しながら、地域の特質を踏まえた活力に満ちた学校経営に努め、県民の信託に応えていくことが使命であります。

昨年度は、14支会(双葉支会は、震災・原発事故後の課題の解決を最優先)において、研究の手引きを踏まえた実践研究が展開され、「研究集録」として発刊でき、県中学校長会の本分としての研鑽も平常に戻ることができました。

また、昨年度末には、この大震災及び原発事故から得た教訓を風化させることなく、本県教育の充実に向けて後世に伝えてくために、「ふくしまを生きる」第2集として『凜と生きる』を発刊しました。この大震災と原発事故が私たち校長に突きつけた課題と対応、そして校長の責務をこれからも絶えず問い質し、この災害の事実と真正面から向き合っていくことが、郷土ふるさとの希望ある復興につながるものと確信しています。

今年は、6月26日(木)・27日(金)の両日にわたり東北地区中学校長会研究協議会福島大会を福島市飯坂町を会場として開催します。研究協議、行政説明、講演等を通して研鑽を深めると共に、特別プログラム「ふくしまからの報告」を通してふくしまの現状と歩みを発信していきます。

また、本年度も、各種調査等を通して本県教育の充実・振興に向けた課題を明確にし、教育行政をはじめ各種団体、関係機関等への働きかけなどを通してより強固な連携を図っていきます。

さらに、全日本中学校長会の研究主題「未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備え、社会において自立的に生きる日本人を育てる中学校教育」(本主題による研究最終年度)を受け、8つの小主題を各支会ごとに分担し、実践研究の成果を研究集録としてまとめ、校長としての資質の向上と学校経営の改善に生かしていきたいと考えています。また、双葉支会の現状と復興に向けた取り組みについても収録していく予定です。

今年度も、各支会との連携の強化を図るとともに、県小学校長会や高等学校長協会、その他関係諸機関との連携に努めながら諸課題の解決を目指していきたいと考えております。

会員の皆様の深いご理解とご協力、そして積極的な取り組みをよろしくお願いいたします。

## 専門部会活動の概要

### ● 行財政部会 ●

教育委員会制度改革、全国学力学習状況調査結果公表や土曜授業実施への動きなどから、今後ますます厳しく激しい変化の到来が予想される。

また一方で、東日本大震災から3年経過しても未だ再開できない学校や本来の校舎に戻れない学校があると同時に、生徒指導上の諸問題が顕在化するなど、復旧・復興への道のりは極めて遠い。

このような中、本部会調査においては特別調査を継続するとともに、全体的には内容を吟味の上、

加除修正・整理統合し実施したところである。

#### 1 当面する課題の調査研究活動

各校が抱えている課題や学校教育の現状を把握し、激しい変化の中で、各々の課題に組織を生かして適切に対応できる解決策を探る。

#### 2 要望活動等

各調査結果を分析・考察し、明らかになった課題の解決や本県義務教育の充実・振興に向けた提案を構築し、要望活動等に臨む。

(行財政部会長 小山 金也)

## ● 研究部会 ●

### 1 共通理解に基づく共同研究の推進

研究の最終年次にあたり、昨年度までの成果と課題を生かしながら、「研究の手引き」に基づいた8小主題による共同研究を推進します。

### 2 研究集録の編集及び「研究の手引き」の作成

今年度は、研究主題に基づく3年間の研究成果を収めた研究集録を編集するとともに、東北地区中福島大会の成果を収めた報告書を作成し、研究の深化を図ります。

さらに、次年度からの新たな研究主題に向けての研究推進資料として、平成27・28・29年度の「研究の手引き」を作成します。

### 3 全日中、東北地区中と連携した研究の深化

(1) 6月26日、27日の東北地区中福島大会では第2分科会(健康・安全教育)で岩瀬支会が研究成果を報告します。

(2) 10月9日、10日の全日中北海道大会に参加し、他県の研究推進にかかわる情報等を収集し、各支会へ提供します。

(3) 平成26年度東北地区中福島大会の開催に向けて、県北3支会(福島・伊達・安達)と連携しながら準備を進めます。

### 4 原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の発信

(1) ふくしまを生きる第2集「凜と生きる」を東北をはじめとして広く全国の関係機関に配布し、「ふくしまの今」を伝えます。

(2) 『ふくしまからの報告』を制作し、東北地区中福島大会の中で発表します。

教育復興に向けての校長の苦悩と決断、中学校長会が果たしてきた責務や、今後の進むべき方向性を示しながら、未来を拓く福島の子らの姿がより伝わる内容にしていきたいと考えています。

(研究部会長 佐藤 和彦)

## ● 進路指導部会 ●

### 1 「生きる力」をはぐくむ進路指導の推進

(1) 進路指導体制の改善・充実

・キャリア教育の充実をめざす進路指導  
・啓発的体験学習を取り入れた進路指導など

(2) 適正な進路指導推進のための資料収集、整備活用工夫

・情報の収集、整備、活用と進路相談  
・各支会の進路指導主事会の活動と充実など

### 2 高等学校入学者選抜方法の改善に向けた高等学校や関係機関との連携

(1) 高等学校との連携強化

・高等学校長協会、私立高校協議会との話し合い活動の推進(特に、調査書記載統一にかかる内容の加除修正)

(2) 高等学校入学者選抜方法の改善、要望活動の推進

・県立高校入学者選抜事務調整会議への要望や意見等の資料作成

・入学者選抜方法、内容、震災後の状況を踏まえた課題の把握や改善のための資料収集及び提供の推進

### 3 適正な進路指導充実のための諸調査の実施と資料提供

(1) 進路指導に関する諸問題の把握と資料提供

・平成25年度末進路指導に関する調査の分析と連携のための資料提供

・平成26年度末進路指導に関する調査

・進路動向調査のあり方の検討

(2) 学級活動の時間の充実のための副読本編集

・「中学生活と進路(県版)」の編集と活用

(3) 適正な就職指導、専修学校・各種学校等の選択指導のための指導助言活動の推進

・就職情報の収集と関係機関との連携強化

(進路指導部会長 大橋 誠寿)

## ● 生徒指導部会 ●

東日本大震災及び原発事故にかかわる中・長期的な課題を把握し、的確な対応を行う。また、生徒の心の問題に配慮し、安全で安心した学校生活を送れる学校づくりに努める。

1 高い規範意識と望ましい人間関係を基盤とした学習集団づくりに努める。

毅然とした指導方針による規律維持、生徒指導の機能を生かした教育活動の充実

2 震災、原発事故等にかかわる課題、不登校やいじめ、反社会的問題行動等、当面する諸課題や未然防止に組織を挙げて対応する。

問題行動の実態把握と対応、不登校やいじめへの適切な対応、情報モラル教育等の充実

3 小学校及び高等学校・家庭・地域・関係機関・団体との連携を強化する。

特に小学校と連携した共通認識と行動連携

4 生徒手帳を編集、刊行する。

(生徒指導部会長 齋藤 良一)

## ● 広報部会 ●

広報部会は、広報誌「福島県中学校長会広報」を年2回発行し、平成24年度より開設したホームページの維持・管理を行い、本会及び関係団体等の活動状況や会員に役立つ新しい情報などを提供し、広報活動の充実に努めます。

### 1 本会及び関係団体等の活動や動向についての情報を提供し、広報活動の充実に努めます。

(1) 本会の組織・運営、事業内容、活動状況の報告

(2) 各支会の活動及び、本会活動への会員の意見や感想の紹介

(3) 関係団体等の活動概要の報告

(4) 広報誌の発行、ホームページの運営、資料の整理

### 2 関係機関・団体等との連携を深め、情報を提供します。

(1) 関係機関からの情報把握と会員への早期周知

(2) 要望活動の報告

(広報部会長 林 尚)

## 第65回 全日本中学校長会総会

5月21日22日に、第65回全日本中学校長会総会が東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、総会と講演、文部科学省行政説明が行われました。

第一日目の午前中に開催された総会では、はじめに細谷美明会長よりあいさつがありました。「全日中教育ビジョン（改訂版）」を踏まえた全国各地の実践情報の提供、東日本大震災からの復興への継続的支援、国の動向とそれに対するかわりなど昨年度の活動を振り返ってのあいさつでした。

続いて、大会役員への表彰盾贈呈、文部科学大臣等からの来賓祝辞の後、議事に入りました。平成25年度の会務報告・決算について承認され、今年度の役員について審議され、会長として松岡敬明氏（武蔵野市立第一中学校）が承認されました。就任の挨拶では、会則にある校長会の目的を達成すべく、次の3点について抱負を述べられました。

いじめ問題、道徳の教科化など、当面の国の動きに対する中学校長会としての対応

「全日中教育ビジョン」の改訂から2年目であることから、10の提言の具現化

東日本大震災の被災地における教育正常化へ向けた支援のあり方

その後、平成26年度活動方針・予算が承認され、平成27年度第66回全日中研究協議会福岡大会における研究協議会主題及び分科会研究題について提案され、次年度以降の研究協議会主題「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」と8つの分科会研究題と研究の視点が承認されました。

最後に、「全日本中学校長会は、教育改革の推進と当面する諸課題の解決に努め、新たな中学校教育の創造を目指し、国民の信託に応える」等の宣言・決議を承認して総会を閉じました。

午後には、「当面する初等中等教育上の諸問題」という演題で、文部科学省初等中等教育局長の前川喜平様より講演をいただきました。主な内容は次の5点です。

1 教育再生実行会議の提言とそれを受けた取組第四次までの提言について、いじめ発生における首長の役割や来年4月より施行予定の教育委員会制度の見直し、大学教育等のあり方等について

2 全国学力・学習状況調査

次年度より理科を追加した3教科による悉皆調査を実施すること、公表については学校ごとに実情が異なるため地教委の判断に委ねたこと等

3 教職員配置改善等の推進

これまでは標準法の改正をせずに加配で行ってきたが、次年度以降は法改正を伴う改善を図ること、少人数指導と少人数学級の選択を現場の判断でできるようにしたいこと等

4 教員の資質能力の向上

10年研修と免許更新講習の重複について負担軽減の工夫を図るよう県教委等へ要請すること、法改正により10年研修の義務化を外し県の実態に応じて柔軟に実施できるようにしたいこと等

5 土曜日の教育活動推進プロジェクト

大臣は、大分県豊後高田市の市民講師を中心にした「学びの21世紀塾」を理想と考えていること、教員が授業を行うだけでなく学校の管理下で特別非常勤講師を活用する等の工夫が必要等

第二日目は、省内各課長様より300頁以上の資料を基に行政説明が行われました。



# 支会情報と特色ある経営

## 福島

### 福島支会の活動



福島支会長 雉子波 敏司  
(福島市立清水中学校)

本支会は「会員相互の職能の向上と地区中学校の充実振興に努めること」を目的とし、県中学校長会や県中教研等の事務局を兼ねた

会員25名(福島市21、川俣町2、福大附属2)の組織である。そのなかで、東京電力第一原子力発電所の事故により計画的避難区域にある川俣町立山木屋中学校は小学校とともに町内の川俣南小学校に移転していたが、昨年度からは川俣中学校の校舎において教育活動を展開している。また、本年度より福島市立茂庭中学校は、生徒数の減少により休校となっている。

特に今年度は次の取組に力を入れていきたい。

- 1 課題解決を目指す定例校長会(年6回)
  - 国・県の動向を捉えた各専門部会の充実
  - 学校経営上の課題の共有と解決策の検討
  - 震災・原発事故の影響に係る課題の解決
- 2 職能の向上を目指す研修会
  - 学校の危機管理機能の向上
  - 組織体制づくり～人事の反省・課題と学校現場の実態・要望
  - 小学校長会、高等学校長協会、関係機関との連携協力

本支会には特別支援学校2校(市立養護学校、附属特別支援学校)が含まれ校種を超えた情報交換も大変有益である。

学力向上はもとより土曜授業の実施、教育委員会制度の改革、地公法改正にともなう新たな人事評価の導入等々、直接的に学校現場に影響を及ぼす教育施策が押し寄せている。県校長会事務局との連携を図りながら、試行錯誤しながらも様々な課題に対応し、本地区中学校教育のさらなる充実に資する活動を進めていきたい。

## 《学校紹介》

### 小中接続による課題解決

福島市立北信中学校

本校は、福島市北部の最近の発達がめざましい住宅・商業・農業地域が混在する地域で、他の学校が生徒数減少の中、唯一増加を続け、県下のマンモス校に発展した中学校である。震災仮設住宅や、震災公営住宅があり、今後も数年にわたり増加が見込まれる。学区には、4校の小学校、高校が1校、大学が1校ある。福島県教育センターのお膝元で有り、研究熱心な学区である。学区は広く、自転車通が6割を占めている。学級増に伴い、プレハブ教室を増設し対応しているが、余裕教室がなく、施設も手狭であるのが悩みの種である。そんな環境の中でも、大きな問題もなく学校経営に取り組んでこれたのは、幼小中高連携の取り組みの成果が大きい。本学区では、幼小中高一貫した指導体制を確立すべく、幼小、小中、中高が力を合わせ、課題解決に積極的に取り組んできた。その主な目的と内容は、次の通りである。

北信地区小中5つの約束を作成し、基本的な生活習慣や学習習慣を身につけさせること

生徒の情報交換を密にし、不登校生の解消など、積極的な問題解決に寄与すること

生徒・児童の交流を通し、小1、中1、高1ギャップの解消に努めること

地域の子どもは地域で育てるという環境を育てるため、小中連携したPTA活動(五校連絡協議会)を推進すること

幼保小中高の先生方、保護者の交流を進め、信頼関係に根ざした地域に開かれた学校づくりを進めること

幼保小中高の生徒同士の交流や先生方の交流、保護者の交流が進み、課題解決に向けての共通認識、共同歩調がとれつつある。「一人でもできるみんなとだともっとできる 北信の子」を合い言葉に、さらに幼保小中高の接続が進み、地域、子どもたちにも自信と誇りが芽生えるようにしていきたい。(茅原 秀雄)



## 石川

## 石川支会情報



石川支会長 吉田 忠夫  
(石川町立石川中学校)

石川支会では、平成27年度に石川中学校と沢田中学校が統合し、石川町は中学校が1校となります。両校の統合にあたっては、校長、教頭、PTA代表、学識経験者等からなる町統合準備会が組織され、制服、ジャージ、通学バス等の検討を行い、最終決定の段階に入っているところです。平成27年度の修学旅行については両校職員で検討を重ねてきた結果、27年の9月に実施することに決定しました。また、両校の生徒会役員同士の会合を定期的に行い、両校の生徒会のよさを取り入れた新生徒会をつくるために、組織や規約の見直しを計画的に進めております。統合に向けての今後の予定としては、両校の教職員からなる生徒指導部会(生活のしおりの検討) 学年部会(積立金、進路教材、学級編制の検討) 備品・物品部会(教材備品、管理備品の確認) 部活動部会(部活動の存続、交流) PTA部会(規約、組織)を組織し、両校の全職員で協議し、共通理解を図って統合の準備を進めて参ります。

本年度の特色ある活動としては、中教研特別活動部会主催による「石川地区生徒会交歓会」があげられます。今年は、「私たちと情報化社会～インターネット、スマートフォン、携帯電話を考える～」をテーマに、各校の生徒会役員の代表が、自校の実態調査結果や取り組みの様子を紹介しながら討論を行い、その結果を自校に持ち帰り、生徒会が主体となった取り組みへと発展させるという構想で実施します。このように、今年も、石川支会8校が切磋琢磨しながら、石川地方の教育力のさらなる向上をめざし教育活動を展開して参ります。

## 《学校紹介》

## 『夢拓く講演会』生徒主体の活動を通して

玉川村立須釜中学校

本校では、将来の夢を育む指導として年3回『夢拓く講演会』を実施しています。職業の世界について実践的に学ばせたり、人生の先輩に学ぶ機会を通して将来の夢を育んだりすることで進路意識の高揚を図っています。

昨年度は、「卒業生に話を聞く会」で進路選択と高校受験、現在の高校生活について、「職業人に話を聞く会」でANAの機長・CA・整備士・地上スタッフから現在の職に就くまでの生き方や夢の実現について、「放射線について学ぶ会」で獨協医科大学教授から放射線の基礎知識、利用と影響、管理と保護についてご指導いただきました。

今年度第1回目は、6月6日に「職業人と語ろう会」として9名の職業人の方を講師としてお迎えし、『夢拓く講演会』を開催しました。

全校生徒が縦割りで8つに分かれ、それぞれの分科会では、講師の方からその職業に就いたきっかけや職業人としての誇り、中学生時代に頑張っていたことなど、生徒たちが進路を考えていく上で大変参考になるお話がありました。今まで漠然としていた職業についての概要を知り、同時にそれに対するあこがれを持つ機会となり、大変有意義な時間となりました。

分科会を終えて、講師の方々からお褒めのお言葉をいただきました。生徒達の目がとても輝いて見えたのが印象的でした。(石井 直人)



ワークショップ形式による「職業人と語ろう会」

## 南会津

## 南会津支会の活動



南会津支会長 渡部 正弘  
(南会津町立南会津中学校)

南会津支会は下郷町、南会津町、檜枝岐村、只見町の4つの町村からなり、学校数は8校で生徒数は合計720名である。年々生徒数

は減少傾向にあり、昨年も伊南中学校と南郷中学校が統合し、今後もその傾向は継続する見通しである。

今年には新任校長が3名赴任し、いずれも他管内からの昇任である。南会津町以外は町村に中学校が1校しかなく、それだけに年6回開催される郡校長会での情報交換や地区研修会は課題共有と解決策の検討のため欠かせない。

## 1 小中高の連携

この地域は地理的、経済的条件から約8割の生徒が地元にある3校(田島、南会津、只見)の高校へ進学する。いずれも定員に満たないため、高校進学を目的とした学習意欲は低い。したがってより高い学力を身につけるため小・中・高間の連携は重要であり、各地域で推進している。

特に只見町では「只見町レインボープラン」を実施しており、確かな学力の定着を目指している。学校間の教師の交流や情報交換、校種間のT・T指導などによる日々の授業の改善や研修により、教師の「指導力の向上」を図ると共に、町内児童生徒の「生きる力」の育成に向けた取り組みを実践している。

## 2 特別支援教育に対する対策

南会津は特別支援学校が設置されていない県内で唯一の地区である。そのため支援学級を卒業後、進学希望する生徒は他管内に行かざるを得ない。通学できる距離ではないので施設に入居することになるが、震災以降避難してくる生徒であふれ、南会津の生徒は入居が困難な状態にある。そのため遠く相馬まで進学しているのが現状である。この事態を打開すべく南会津校長会では今後の支援を要する児童生徒の状況を調査してまとめ、県教委や行政機関にあらゆる機会をとらえて訴え続けている。

## 《学校紹介》

## キャリアセミナーの開催

南会津町立南会津中学校

「夢を求めて自ら磨き、思いやりの心でふれあい、仲間と共に伸びる」を教育目標に掲げ、昨年4月に旧伊南中学校と南郷中学校とが統合し、新設南会津中学校がスタートした。

尾瀬沼を水源とする伊南川沿いにたたずむ本校は、豊かな自然に恵まれ、生徒も素直で明るい。しかし、キャリア教育アンケートを実施した結果、「目標を立て、実現の方法を考える」などのキャリアプランニング能力では極めて低い数値を示した。生徒が夢を持って、それを成就させようとする強い意志をもつことが「生き抜く力」を育む絶対条件であるとの共通理解が全職員に生まれた。そこで、様々なキャリアを持つ若者の進路講話が、生徒に内在する「やり抜こうとする粘り強さ」を芽生えさせ、その実現に向かって計画的な取り組みにつながることを願い、キャリアセミナーを開催した。今後も継続していく予定である。

## NPO法人コースターの活用

NPO法人コースターとは、福島の復興に関わる活動をしてきた市民有志の集りで、社会の課題に向かって直接向き合い、より良い方向へと変革していくための団体である。ニートやフリーターの支援もしてきて経験豊富である。

## 実施形式

社会人9名を招聘し、事前に生徒が講話を聞きたい社会人2名(2コマ分)の講話を聞く。1名の社会人につき、生徒10名前後のグループで、気軽に対話しやすい空間を作り、より密度の濃い学びを提供する。

## 生徒の感想から

私はチャレンジすることが苦手です。でもRさんの話を聞いてから、何でもチャレンジしてみようと思いました。私は頭が悪いから将来の夢が叶うかわからないけど、夢をあきらめずに頑張る勇気を今日はもらいました。(1年生)



## 第64回東北地区中学校長会 研究協議会御礼

実行委員長 雉子波 敏司  
(福島市立清水中学校)

第64回東北地区中学校長会研究協議会福島大会は、去る6月26日(木)・27日(金)の2日間の日程で、827名の参加を得て福島市飯坂温泉「パルセいいざか」を主会場に開催されました。

県北地区(伊達・安達・福島)3支会42名の校長で実行委員会を組織し、昨年度から準備を進め、滞りなく終了することができました。これも偏に県内各支会のご支援・ご協力のおかげであり、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

本大会を開催するに当たっては、「記憶に残る大会」にとの思いから、特に第1日目は特別に時間を割いて、「ふくしまからの報告」を企画しました。「ふくしまを生きる」第2集・震災が切り拓いていく教育「凜と生きる～私たちの責務から」をもとに、東日本大震災・原発事故から3年間にわたる本県中学校の復興への歩みと現状、そして今後に向けた方向性を東北各県に向けて広く発信できたのではないかと考えています。

第2日目の分科会では、第2分科会において、岩瀬支会から「地域に根ざした健康教育の充実～関係機関との連携を通して～」をテーマに、放射線教育への取り組みや歯科医師会との連携など実践事例を通して、3年間の継続研究の成果を発表していただきました。3会場に分かれての開催で、会場移動には大変ご不便をおかけしましたが、記念講演におきましては、環境水族館・アクアマリンふくしまの安部義孝館長から、「災害から何を学ぶか」をテーマに数多くの興味深いお話をいただき、有意義な時間を持つことができました。

本大会が、震災と原発事故からの復興という難しい課題に向き合っている福島県で、県内全ての中学校長の協力を得て充実した内容で終了できたことに改めて感謝申しあげ、御礼のあいさつといたします。大変ありがとうございました。

## 平成26年度東北地区中学校長会福島大会概要



### 1 大会主題

『未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備え社会において自立的に生きる日本人を育てる中学校教育』

### 2 期日・内容

平成26年6月26日(木)・27日(金)

#### 第1日目(摺上亭大鳥・パルセ飯坂)

副会長会

理事会・分科会運営委員会

開会式

理事会報告・宣言・決議

「ふくしま」からの報告

文部科学省行政説明

文部科学省官房審議官初等中等教育担当

義本 博司 氏

#### 第2日目(パルセ飯坂・吉川屋

飯坂ホテル聚楽)

研究協議会

・第1分科会：進路指導

・第2分科会：健康・安全教育

・第3分科会：道徳教育

記念講演

講師：ふくしま海洋科学館

館長 安部 義孝 氏

演題：「災害から何を学ぶか」

閉会式

## 新会員紹介

支会	氏名	校名
福島	荒井 孝 祐	山 木 屋
岩瀬	末 永 仁	鏡 石
田村	森 川 幸 治	滝 根
田村	中 村 徹	船 引 南
東西しらかわ	高 橋 伸 明	西 郷 二
東西しらかわ	半 沢 一 寛	川 谷
耶 麻	長谷川 浩 文	高 郷
両 沼	佐 藤 充	昭 和
南会津	目 黒 和 志	檜 沢
南会津	古 川 一 博	荒 海
南会津	坂 口 伸	館 岩
相 馬	館 下 昭 夫	玉 野

支会	氏名	校名
相馬	早 川 良 一	磯 部
相馬	目 黒 満	飯 舘
双葉	伏 見 康 弘	双 葉
双葉	本 間 義 和	川 内
双葉	伊 藤 浩 樹	檜 葉
双葉	高 橋 知 宏	広 野
双葉	山 田 克 行	富 岡 二
いわき	吉 田 隆 則	川 前
いわき	高 橋 国 雄	桶 売
いわき	遠 藤 晴 美	三 阪
いわき	馬 目 俊 一	差 塩
いわき	鯨 岡 寛 泰	湯 本 三

## 新会員の声

### これまでの経験を生かして

田村市立滝根中学校 森川 幸治

「若いときの苦労は買ってでもせよ」とは、新採用教員として初めて勤務した学校の教頭先生に言われた言葉である。教諭、教頭職のとき、困難なことに向かうときや仕事を依頼されたとき、この言葉がいつも自分を後押ししてくれたような気がする。今年度校長職となった私には、今後さまざまな困難（苦労）が訪れるかもしれない。この困難への対処法は、これまでの長い教員生活で困難を乗り越えてきた経験がきっと役立つはずである。

昨今の学校は、生徒への学習指導や生徒指導のみならず、保護者や地域住民との適切な対応が求められている。所属する教職員が自信をもって教育活動に当たれるよう、校長としての学校経営の指針、困難な事例に対する対処法を的確に示してやれるようにしたい。学校教育の充実には、保護者や地域住民との連携は不可欠である。そのために、校長として力を入れたいのは、保護者や地域住民に「学校教育活動、生徒や教師の関わり」が見えるようにすることである。学校教育活動の様子（生徒たちのがんばり）を学校便りやホームページで適宜知らせ、保護者や地域住民に学校の良き理解者、協力者になってもらうことである。一部の保護者には、新米の校長という一抹の不安があるかもしれないが、一生懸命学校経営に関わり、生徒たちの頑張る姿を応援したい。校長が学校の最高責任者であるという自覚とともに、自分はまだ駆け出しの校長であるという謙虚さも忘れず、校長として「苦労は買ってでもせよ」という意気込みと、常に前向きな気持ちで職務に臨みたい。

### モーニング

相馬市立玉野中学校 館下 明夫

4月7日。入学式。初めてのモーニングに身を包み6名の入学生を迎え入れました。新入生の目の輝きは言うまでもありませんが、在校生2・3年生5名も新しい仲間へ歓迎の眼差しを送っていました。前任の檜葉中学校そして、自宅のある双葉町。あれから、3年と3ヶ月が過ぎ、学校現場では今まで通りに進められている部分と、当たり前前のことが当たり前前にはできない部分とがあり、様々な課題が山積しています。新任でこの玉野中学校に着任し放射能汚染の広範囲な現実と影響に対して改めて学校の教育現場で何をしなければならないのかが大きな悩みでした。教育環境の充実に向けて市教委と連携しながら校長のリーダーシップを発揮し取り組まなければならないと思いました。式辞の中で、学校は、「生徒が主役であること。」「安全で安心して学べる所でなければならないこと。」「そして、多くの可能性を秘めた生徒達の自己実現のための環境づくりを約束し、何事にもチャレンジ精神をもって中学校生活を送って欲しいことを話しました。過日、中体連相双地区大会が開催され、本校では全校生11名が卓球部に所属し、男子卓球団体が見事県大会出場権を得て、生徒達の活躍に教職員全員で歓喜しましたが、逆に生徒達から我々が元気をもらっています。生徒に寄り添い、正面から向き合って学び続けるための希望の光を、照らし続けなければならないと、モーニングを着ている自分の写真に叱咤激励しております。

昨今、「体育の校長が多いですね。」とよく言われるので、「体育の教師とは」ということについて、日頃思っていることの一部をちょっと違った角度から書き連ねてみたいと思います。

### 1 はじめに

昭和53年、保健体育の教師として教壇に立った頃、先輩教師から「体育人はな、子どものためになることは、迷わずに黙々とやるんだ。」、ある体育教師上がりの校長からは「教師は授業が勝負だ。

先生のような体育人になれよ。」と言われたのがいつも心の中にあります。今こうして、30数年が過ぎ、沢山の体育教師と出会い、共に切磋琢磨してきましたが、「ん～ん、この先生は多くの体育教師と違うな。」と納得できる方が、何人かいらっしゃいます。中でも高校時代、人生を決める人との出会いがありました。その人が体育教師でした。有言実行、誰にでも、何にでも、いつでも誠実で、時に厳しく時に思いやりがあり、その人の言うとおりにすると力がつく、信頼できる、一緒にいると安心する、そんな先生でした。自分もこの先生のようになりたいと思いました。その先生と出会わなければ、今の私は存在しません。まさに、「体育人」の筆頭にあげる先生です。

現在「体育人」という言葉を知っている体育教師が何人いるのでしょうか。「死語」になってはいないでしょうか。

### 2 単なる1教科でない「保健体育」

保健体育の「体」は【知（賢く）徳（仲良く）体（元気良く）】この全てを含み、人間形成に大きな役割を果たしていると思うのです。前回の改定で「不易」と「流行」という言葉が取りだされましたが、私は現在でも不易なものが9割を占めるといっても過言ではないと考えています。

足元を固め、これらのことをきちんと指導し、心身の健康を「育て・育む」のが「体育」ではないでしょうか。

### 3 子どもの大切な生命を直接あずかる

座学と違い、身体活動を伴う体育の授業は、けがの心配があります。また、あってはならぬことです。生命の危険に及ぶこともあります。

従って、事故防止のために、「物的・人的管理」等、ありとあらゆることを想定して指導にあたる必要があります。私は特に、生徒との授業の約束

を大切にしてきました。約束＝学習訓練なのです。「体育の授業を通して生徒に何を教えるのか。」と問われれば、「私は、『ルール』ということをお教えしてきたつもりです。」と即答します。どんなスポーツにもルールがあります。ルールに違反すると、注意・警告・退場・失格等々の罰が与えられます。私たちの社会にもルールがあります。

広い意味でのルール（約束）は、事故防止や技能の習得・安全に仲間とスポーツを楽しむ上で欠かすことができないものです。

従って、体育の授業を通して、一人前の社会人に育て、世に送り出してやりたいのです。

### 4 学校の活性化に体育は欠かせない

明るく楽しい学校生活のための企画運営に、体育教師は欠かせない存在です。単元・年間指導計画は勿論、総則第3や運動部活動の重要性から、学校教育活動全体を考慮し、体力の向上及び心身の健康の保持増進のために、家庭や地域・関係機関を巻き込んだ企画運営をすることにより、生徒達は楽しみながら自然と自己の健康や体力の向上への意識が高まるものと考えています。

そのためには、独断専行ではなく、広い視野に立ち、協調心を持って周囲をまとめていくことが大切です。

### 5 生徒指導の要は、やはり体育教師

体育教師は、体力がある・声大きい・指示やリードがうまい・責任感が強い・行動力がある・事故発生時の対応が優れている等々の理由で、学校では大きな存在感があります。故に、生徒指導の最前線に立たされてしまう事が多いです。だからこそ日頃の言動・生徒理解に立った指導（罪を憎んで人を憎まず）が大切であり、そういう指導ができる教師は生徒からの信頼も厚いはずです。

### 6 終わりに

「体育は生徒指導（人間教育）そのもの」そして「体育は両刃の剣」です。授業を見るとその人がわかる。その人を見れば授業がわかるものです。「子は親の背を見て育つ」「生徒は教師の背を見て育つ」のです。われわれ体育教師の日頃の言動・服装・品性・品格が生徒に大きく反映するのではないのでしょうか。

「体育教師よ、畏れられ親しまれる教師になれ。そして『体育人』たれ。」

## 随想



北会津支会長  
川島 宏  
(会津若松市立第四中学校)

『体育人』この三文字の重み  
(体育教師上がりの校長として)